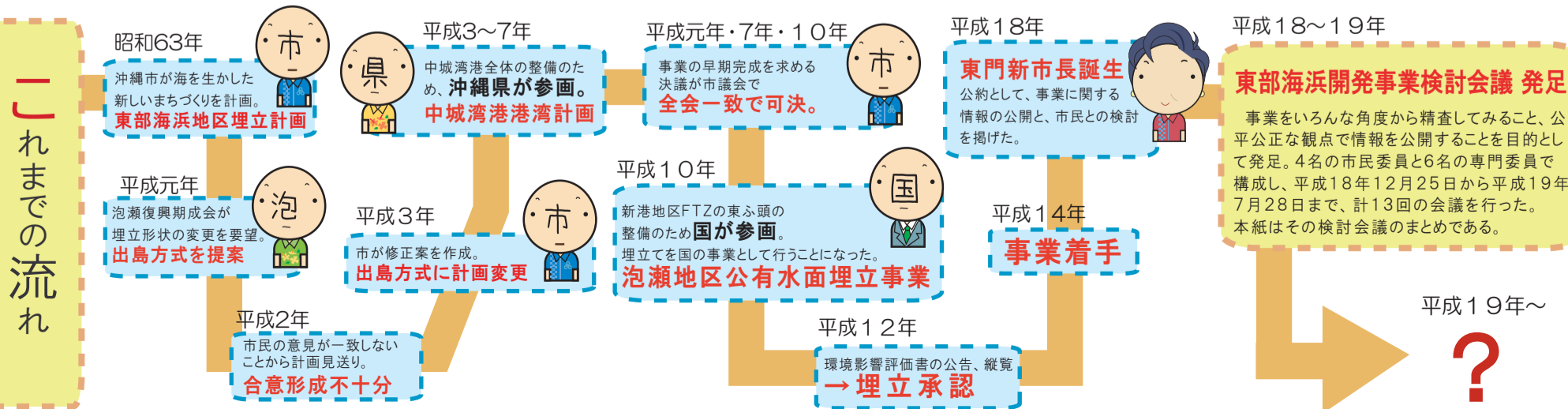


この新聞は、約7ヶ月にわたる
東部海浜開発事業検討会議の話が
どんなものであったのか、何がわかったのかをまとめたものです。
正式な報告および関係資料は、沖縄市のホームページや担当課に置いてありますが、
それはあまりに膨大なので、まずはこの新聞を読んでみてください。
なお沖縄市を含め他者からの関与を避けるために、製作にかかった約10万円の費用
は、多くの個人の方々のカンパによってまかなわれました。



こんなことやってました

1 それぞれの思い

二〇〇六年十二月二十五日、第一回東部海浜開発事業検討会議が開かれました。それぞれの思いを胸に、十人の委員が初対面。緊張の面持ちで委嘱状を受け取りました。東部海浜開発事業の概要の説明や検討会議の目的などの説明があり、その後、会議の運営や今後の必要な資料について議論を行い、委員の疑問点を整理し議題案を作っていくことが確認されました。



2 疑問点の洗い出し

何に重点をおいて議論していくべきかを検討するために、各委員の事業に対する疑問や意見をカードに書いて、にかつた内容でグループを作り、整理をしていきました。

その他、会議の進め方や傍聴者のルールについても話し合われました。



3 精査の第一歩

これまで出された疑問点を精査するために、まず、「中城湾港泡瀬地区人工島事業の理解の進め方」を熟読することにしました。読み進めるなかで、「本島中部東海岸域の振興、活性化の起爆剤」と「新港地区特別自由貿易地域（以下「FTZ」）前面の航路・泊地整備で発生する深層土砂の処分場」二点が、今回の事業の大きな目的であることがわかりました。

その一方で、「現状の計画案では、ビジョンが薄く魅力を感じず、起爆剤にならない」「失われる自然の価値に値する事業計画が必要」といった議論がありました。



「中城湾港泡瀬地区人工島事業の理解のために」

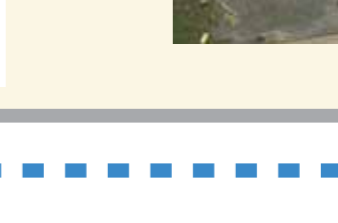
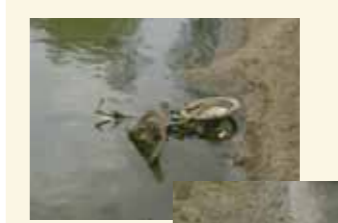
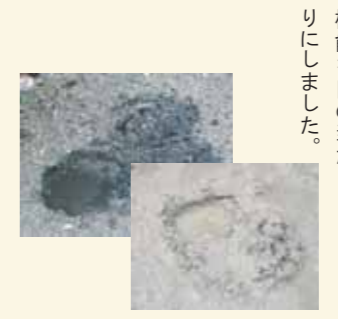
泡瀬地区の人工島事業の目的や意義、環境への対策などがわかりやすくなるように、整理されている資料の事です。沖縄県総合事務局 中城湾港出張所のホームページで見ることができます。



<http://www.dc.ogb.go.jp/nakagusukuwankou/>

4 現地視察へ

「泡瀬干潟の価値を理解すること」と、「これから何が作られようとしているのかを知るために」、泡瀬干潟との周辺環境、埋立工事現場の視察を行いました。当日はあいにくの曇り空で少し肌寒かったのですが、干潟では水に入っている生き物に触れ、海上工事現場へは波しぶきを浴びながら片道四十分かけて船で渡り、精力的に視察を行いました。

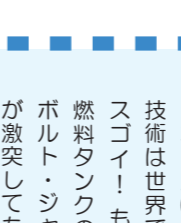
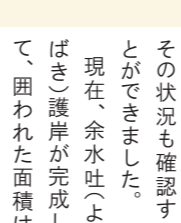
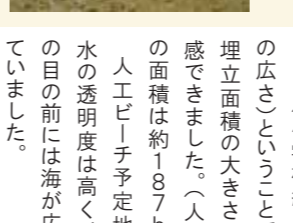
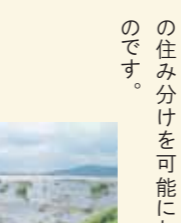
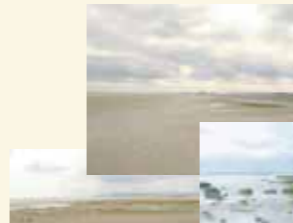


◆多様な干潟の生物
干潟を歩いていると、小さな生き物に出会うことができました。干潟ではこれらの生き物たちが絶妙なバランスで支えあっていることを学びました。

◆干潟の多様性
干潟はさまざまな環境の複合体です。小さな石礫の多い場所や、どろどろの砂地、大きな石が転がっている場所、藻が生い茂る場所などが存在し、水の流れやわずかな高低差などで全く違う顔を見せてくれます。このような生き物の多様性が、さまざまな生き物のすみ分けを可能にしているのです。

◆泡瀬は、生命のゆりかご
密生した藻場は、小さな生き物たちの絶好の隠れ場所であり、また、豊富な餌も提供してくれ、ここに生息している魚たちの中には、成長して外海に出て行き、産卵でここに戻ってくるものもいます。

◆干潟を脅かす脅威
排水路に垂れ流され続けている生活排水は、そのまま海へ流れ込みます。これらの生活排水が干潟の浄化作用を凌駕する脅威となり、さらに、干潟の浄化作用が低下すると海の汚染に繋がります。



5 市からの回答

第四回検討会議で、「人工島事業の理解のために」に関する疑問があげられ、その中から沖縄市に回答を求めた疑問点について、事務局より回答や説明がありました。

その後、「具体的なものがなにも見えてこない」「埋立事業中止の権限が市にないのでは」「市民の意見として、県に伝えることができないのか」といった議論がありました。



8 各団体への聞き取り調査

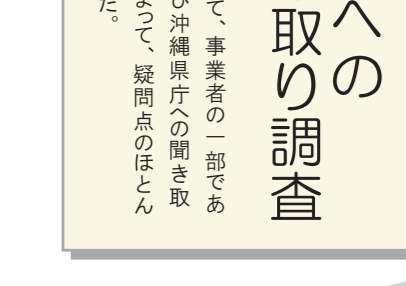
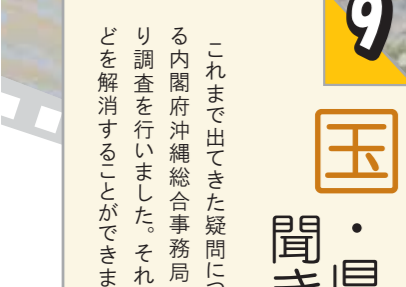
各団体への聞き取り調査からは、推進派、反対派ともに「自然を守りたい」「沖縄市の活性化を願っている」と共通の思いがあることがわかりました。さらに、

一、開発によって干潟を保全できるか否か。
二、東部海浜開発事業によって沖縄市の活性化が出来るか否か。
が争点になっていることが浮かび上がりました。



9 県への聞き取り調査

これまで出てきた疑問について、事業者の一部である内閣府沖縄総合事務局及び沖縄県庁への聞き取り調査を行いました。それによって、疑問点のほとんどを解消することができました。



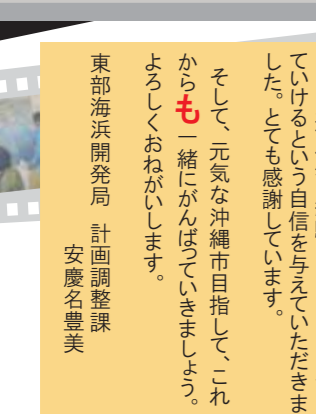
わかったこと、これからのこと

(編集後記)

全十三回の会議を通して、ほんとうにいろんなことを学びました。この事業は「市・美里村が合併したら考えられてきた」と。陸地と一体だった埋立てが、地元泡瀬の人たちの提案で人工島に変更された。現在では埋立て後の土地利用が違ってくる。泡瀬干潟にはすこい浄化機能があること、希少な生き物がたくさんいること。他にもいろんなことがわかりました。これらは、とても重要なこと。これらが通ったが、現在の状況があるのですから。でも、会議を通してわかった、いちばん大切なこと。もっとも、わたしたちは知らなくては行けない。自分たちの住むまちのこと、自然のこと、住む人たちのこと。

そして、もっとも、みんなで考えなくては行けない。このまちの将来のこと、子供たちの将来のこと。

よりよまにまわっていくためには、みんなが知り、みんなで考えることが必要なのだ。強く感じました。そうしたら、このまちはきっともっと良くなっていくと思います。(編集長)



6 市民意見の聴取

東部海浜開発事業の関係団体に予備調査票を送付し回答を求め、委員全員で聞き取り調査を行いました。沖縄市、美里村、過去六年間取り沖縄市に要請をしている団体と傍聴者からの推薦団体、会議上で名前が挙がった団体のすべてに送付することになりました。(合計五十一団体)さらに、沖縄市HPから調査票のダウンロードを可能にし、調査票を送付した団体以外も回答できるようにしました。



事務局長より
去年のクリスマスから約七ヶ月間、委員の皆様のおかげで、第一回検討会議が下がり、第二回は「FTZ」に関する第一回検討会議を行なうことになりました。迷走した話ですが、今回の内容は、市民の意見、時間は長い、資料も多し、宿題もある。この出番率は100%。さらに、勉強会も両手に取ってまいりました。あつ、それに加えて、フリーペーパーをつくるなど、本気で取り組んでいます。

私たちが沖縄市が「元氣なまち」でありつづけるためには、市民との協働は必須条件です。「市民との協働」言葉で言うのは簡単です。行政としては、なかなか手が出せないほど欲しいのに、なかなか実践できません。検討会議は「市民との協働の入り口」と思っています。

長いようで、短いような七月間、会議を通じて、大変な、難し、シンドイ、そして達成感も経験できて、また、やっつけていけるという自信を手に入れたと思います。とても感謝しています。

そして、元氣な沖縄市目指して、これからも一緒にがんばります。よろしくおねがいします。

東部海浜開発局 計画調整課 安藤名豊美

COLUMN

泡瀬に住む希少生物
泡瀬干潟は希少な生き物の宝庫。代表的なものでは、世界で沖縄本島の四箇所にししか生えていない海草「クレミドロ」や、日本では沖縄本島のごく一部にししか生息しない「トカゲハゼ」など。ほかに、泡瀬干潟にはふしぎな生き物がたくさんあります。



手作りのポスター

より多くのみなさんに関心を持って頂くために、委員の手作りポスターによる広報が提案されました。手作りポスターは、公民館やスーパー等、大勢の人が集まりそうな場所に貼って頂きました。ご協力頂いた皆様、ありがとうございました。



FTZの入居企業

検討会議でFTZ内の企業二社を見学しました。一社は美ら海水族館の世界のアクアリウムを製作したことで一躍有名になった株式会社アクア。そのアクアリウム技術は世界でもトップクラスなのだとか。スゴイ！もう一社は米軍御用達の堅固な燃料タンクの製造・販売を行っているコンボルト・ジャパン(阪)さん。タンクにトラックが激突してもびくともしないそうです。スゴイ！FTZにはほかに個性豊かな企業がたくさん入居しているそうです。



ラジオ出演

六月三日、岩田委員、農科委員、島田委員の三人はラジオ沖縄のトーク番組「沖縄羅針盤」に出演しました。勿論テーマは沖縄市の「東部海浜開発事業」について。市民ひとり一人の街づくりへの参加が大切であること、切々と語り合っています。この番組はインターネットでも聴けます。なんと地球の裏側でも聴いている人がいた？あなたもちょっと聴いてみてください。



勉強会

第七回検討会議が終わったころから始まった勉強会。数えたらなんと七回にもなりまして、みんなへらへらになりながらも懸命の話し合い。ほんとうにお疲れ様です。事務局からの差し入れがひそかな楽しみでした。



資料の山また山

これは、全て委員に配られた資料達の一瞥です。困り果てかかわる埋立て、市がかわる開発計画・地元住民の声、泡瀬の歴史・環境データ…などなど。資料を読み込んで理解するだけで頭が一杯です。



済マーク

委員が書いたたくさんの疑問・意見カードに、回答があったり理解ができたなら、「ボン・ポイント」を押していきまいた。中には「納得できない」「回答が足りない」という意見も届いてきました。疑問が通へてくれています。



委員の大きなひょうりょう


市役所の主体性と市民参加の推進

本検討会議は七ヶ月に渡って公開されている情報をつぎに確認し、①この開発計画で沖縄市は発展活性化できるのか？②この開発計画で干潟等の自然環境は守れるのか？という二つの争点に迫ってみたい。報告書に添付されている各種資料を含め、現状についてほぼ網羅する形で関連する情報を確認し集約されたと思う。が、争点はこと、将来のことなので、誰も保証出来る人はいない。当り前のことだが、100%の回答はなかった。

さて、ここからである。私がいついた答えは、①市役所の主体性と②市民参加の推進が求められているということ。この計画は、確かに国が進める新港地区の航路浚渫のための土砂を活用した埋立事業を前提として成り立っているが、沖縄市側は埋立てが完了していない等の理由で、その土地の利用計画を積極的に具体化していないという印象を受けた。沖縄市が主体の事業であること、より強い自覚と行動が求められる。

本検討会議は、正に市民参加の推進を実践した場でもあった。市役所側も積極的に情報を提供し、或いは委員の独自の勉強会活動等もよくフォローし、課題解決に委員(市民)と役所がパートナーシップを発揮していたように思う。今後の沖縄市の各種政策のモデルでもして頂ければ？と密かに私は願っている。

沖縄市にとって、この計画の成否は、**沖縄市がどれだけ主体性を発揮して取り組めるか、どれだけ市民参加型で臨めるか、**だと強く思う。時代の歯車はまわり続けている。少し立ち止まることはあっても後戻りは出来ない。沖縄市にとっての大仕事である「東部海浜開発事業」を市民事業として**市民と行政が協同で本気にならなければならぬ**。今後は**沖縄市が協同で本気にならなければならぬ**。今後は**沖縄市が協同で本気にならなければならぬ**。



島田勝也 (副座長)
 沖縄市出身。NTT西日本沖縄に勤務の傍ら、NPO活動や琉球大学非常勤講師等もやっている。趣味は「旅をすること」と「人と会って話すこと」。会議では、毎回、議論の落としどころを見つけるまとめ役。(当山評)

まずは足下から

東部海浜開発事業については、話題に出すのはタブーに近い雰囲気があるのかもしれない。全く関心がない人も多いかも。でも、自分が住んでいる地域の関心を持つて、多くの人がまちの将来を考へることが大切だと思つ。

そのまま事業を続けるにしても、中止にするにしても、市民一人ひとりが自分の住んでいるまちの将来に関わる問題として考へて、決めることができれば、沖縄市はもっとよくなります。

まずは、現在の泡瀬干潟を体感してみませんか。




當山真由美
 沖縄市出身。(株)都市科学政策研究所に勤務し、県内市町村のまちづくり計画に従事している。趣味は、サクセスと写真を撮ること。いつでものほほんマイペース。(當山評)

今大事なこと

今僕が思うこと。道や海や公園に落ちていたゴミは誰がきれいにしてくれているんだろう？市の職員さんだったり、近所のおばさんだったり、ボランティアの皆さんだったり。それでも「ゴミはまた増える、たぶん拾う人より捨てる人の人が多いから。車をヒカヒカに磨いた洗剤や下水を通らない汚れた水は、側溝を通じて川に入つて海に流れ込む。」

海はゴミも水も最後に集まる所。テトラポットの隙間にも浜辺にも海の中にも、プラスチック・ビニール乾電池・タバコのフィルターなんかは分解できる生物がいないからいつまでも漂つたり埋まつたり、ヘドロがたくさんたまつたり。

泡瀬干潟の埋立てやそこに何を造るのかを考へるのはとても大事。でも沖縄は観光も漁業も海で生きている島だから、一人ひとりが海を身近に考へることがもっと大事。沖縄は気候も人柄も暖かい。その暖かさが海にもゴミにも広がれば、きつともつといまちになるんじゃないかと思つ。



岩田健吉
 沖縄市在住。保育士、介護福祉士資格所有しており、長男誕生以来、主夫業担当。休日は泡瀬干潟で魚観察・シノーケリングにいそむ。会議に臨む姿勢も発言も、真面目で実直な人柄そのもの。(當山評)

とても気になることもひとつの事

政府が進める「アジア・ゲートウェイ構想」に合わせ、県の動きが活発化しています。「アジア・ゲートウェイ構想」とは、日本がアジアとの架け橋になる事を目指して、人材・物流・ビジュアルや国際人材受入戦略など七つの重点施策を掲げた政策ですが、それに対応して県は、地理的・歴史的特性を生かした拠点形成に向け五つの重点分野を設定し、方針案をまとめています。その中で気になるのは、那覇空港と那覇港を中心として国際物流企業の誘致をすすめるという事です。

県の港湾計画において中城新港地区は、那覇港に極集中している物流機能を分けて、物流の効率化と均衡ある発展に資するものとしています。アジア・ゲートウェイ構想に対する県の取り組みは素晴らしいですが、ひょっとして**中城新港地区は置き去りにされていないだろうか**、ふと心配になりました。県の意気込みとは別に、とても気になるのは私一人でしょうか。



高江洲昌和
 沖縄市出身及び在住。おきなわ証券代表取締役社長。趣味の三線では教師免許を取得している。冷静かつ物腰柔らかい頼りになる方。(當山評)


私たちの責任

泡瀬干潟は、魅力的な生物達が暮らす、とても素敵な場所です。その泡瀬干潟で今、2つの開発事業が進んでいます。7か月におよぶ今回の検討会議によって、

- ① 開発によって干潟を保全できるか否か、
- ② 事業によって沖縄市の活性化が出来るか否か、

という二つの「争点」が明確化されました。自然環境が壊れる。命もありません。既に失われてしまった。合意がない。関心すらもたれない。それでも事業は進んでいるんです。

まず、立ち止まりませんか。泡瀬干潟の問題に真剣に向き合いませんか。事業のこと、自然のこと、しっかりと学びませんか。そして、みんなで集まって徹底的に考へませんか。合意に向けた努力をしませんか。これらのことは**既に失われてしまった、これから失われるかもしれない泡瀬干潟の自然に対する私たちの最低限の責任だと思います。**



藤田喜久
 宜野湾市在住。琉球大学非常勤講師。理学博士で、水棲の無脊椎動物(特にエビ・カニ類。)を専門としている。2005年にNPO法人海の自然史研究所を設立し、科学コミュニケーションに関する活動を行っている。開発と生態系保全のバランスについて考へる熱い科学者。(當山評)

検討会議に参加して

調査票の送付・回収。その後五団体との聞き取り調査を終え、共通点として①自然を守りたい気持ちがある、②沖縄市の現状を改善し活性化を願っている、③話し合いを持つ必要性を認識している、争点として④話し合いによって干潟を保全できるか否か、⑤東部海浜開発事業によって沖縄市の活性化ができるか否か、その他として⑥推進団体の中でも事業の見直しを必要としている、⑦人間生活が与える干潟への悪影響とその改善の必要性を認識している、ということが第十二回の検討会議の中で導き出された。

また、関連図の疑問点「平成七年に策定された現計画案の見直しが必要でないのはなぜか」について、事務局側からの回答は「土地利用の見直しは、埋立造成完了時においても可能。土地利用が図られるまでに市民意見や社会情勢等も踏まえた、より良い土地利用計画にしたい」とあった。

これらの内容から、自然を守り開発事業(相反する言葉ではあるが)を行ひ、環境との調和共生をいかに図るかを、**反対団体・推進団体・一般市民も話し合いを持つ必要性がある**と考へる。また、**市当局の考へと市民意見を融合させ、社会情勢等も踏まえた、沖縄市の活性化の起爆剤になりえる土地利用計画を行う事が今後重要で急務と考へる。**



大田至
 沖縄市出身及び在住。クリーニング店主で、沖縄市ピース通り会会長を務める。趣味は釣り・キャンプ。泡瀬の将来を熱く語るやんちゃなおじさん。(當山評)

もうひとつの課題

生き物の宝庫と言われる泡瀬干潟。非常に珍しい生き物がたくさん生息しており、世界的にも価値が高いと言われていています。

しかしその干潟には生活排水が流れ込み、水路出口付近の水は真っ黒に汚れゴミもいっぱい転がっています。そこから西に向かった先には多くの渡り鳥が飛来する。ここで知られる比屋根湿地があります。

しかしこのマングローブ林には大量の生活ゴミが投棄され手がつけられない状態です。そしてここにも生活排水は流れ込んでいます。干潟は深刻なダメージを受け続けています。

東部海浜開発事業の聞き取り調査をした際、推進派の方も、反対派の方も、この干潟をとりまく自然を守つていきたい、環境悪化を食い止めたいという想いがありました。その一方で、われわれ沖縄市民は、その干潟を汚し続けているのです。

藁科邦利 (本紙編集長)
 沖縄市在住。沖縄市ITワークプラザ(泡瀬干潟横)内の企業で、携帯電話や業務用のコンテンツ開発等を行っている。古謝自治会でエイサーや獅子舞などの活動に参加する等、多忙ながらも日々を楽しむことが得意な方。(當山評)

沖縄経済の自立

夕張市の破産というニュースは、どんなに不景気の時代でも、自治体は安泰という神話が崩れ、行政住民に警笛を鳴らした衝撃的な報道でした。

沖縄県内の市町村も、対岸の火事ではありません。全ての市町村が苦しみ、予算は基金の取り崩しをするなど、県内にも夕張市予備軍の自治体があります。過去最高のいざなぎ景気と言われているが、地方には体感がなく、沖縄市においては中心市街地の空洞化が広がりが、失業率は県平均の約二倍と深刻な経済状況にあります。また、沖縄市は極大最大の基地を抱え、基地があるゆえに米兵等による事件が後を立たず、沖縄県には、在日米軍基地の75%が集中している弊害として、黒人米兵3人による北部での少女暴行事件というあまりにも痛ましい悲劇が起きてしましました。

一日も早く、経済を自立化させ、「**基地経済に依存しない沖縄の実現が必要**」であります。東部海浜開発事業は、**真に沖縄の自立化へ繋がる計画へと見直すべきです。**



伊良部光宏
 沖縄市在住。NTT西日本一沖縄に勤務。子供の小学校入学を機に、PTA役員として活動する傍ら、美里子ども会を中心に地域の子供たちへエイサーを指導した。思いこんだら一直線の一途な方。(當山評)

幸せの可能性

皆さんは、「泡瀬埋立の賛否」について問われたらどう答えますか？

実はこの正解は存在しません。住んでいる場所、地域との関わり方、生物を含めた自然環境から捉えた場合、経済状況からとらえた場合など、皆さんの置かれた環境や、どの視点で問いを捉えるか、で様々な答えがあります。その意味では、答えに正解・不正解をつけることはできません。

自分の答えと違うからといって相手を批判するのはおかしいですね。でも変な話ですが答えは異なっても求めるのは一緒なんです。●幸せになりたい！●自然を守りたい！●仲良くしたい！

それを手に入れる手段が違っただけなんです。ですから**もっと近づいて相手を理解し、話し合えばきつとすばらしい答えが見つかるはず**です。私はその可能性を実感しました。

比嘉徹
 読谷村在住。株式会社レイメイコンピュータ代表取締役社長。「第1回ビジネスオンリーワン賞」を受賞するなど沖縄のITフロントランナーとして活躍している。多趣味・多才で、物事の本質を見極める視点をお持ちの方。(當山評)

沖縄市の未来に必要なもの

「大変な〜！」、「大丈夫？」、「エ、なんで引き受けたの？」、「何、それ！」それも今回の東部海浜開発事業検討会議の座長を引き受けた際、家族や知人から寄せられた言葉の数々である。驚きと同情が入り交じった内容が東部海浜開発事業(以下では、「本事業」とする)の複雑さを物語っているかのようである。

本検討会議は、二〇〇六年十二月二五日の第一回から二〇〇七年七月二八日までの第十三回にわたって、市民の皆さんの公開を目的としたため、多忙中の中真重な時間、特に、家族サービスに当たるとき土曜日に開催したにも関わらず検討会議には毎回ほぼ全員が参加、また、検討会議以外においても、十回以上にわたる勉強会を手弁当で、また、深夜まで参加して頂いた市民委員の沖縄市を少しでも良くなるように変えたいという熱意、また、検討会議や勉強会終了後も深夜を過ぎても沖縄市庁舎へ居残り、議事録のまとめ、資料作成、連絡や交渉に忍耐強く、辛抱強く、そして誠心誠意業務遂行を行って頂いた沖縄市東部海浜開発局の職員一同の賜物である。まさに**この市民と市職員の連携という構図が隠れた目的であり、今後の沖縄に必要な地域行政のあり方でもある。**

最後に、拙い座長による時間浪費的な会議運営ではあったが、沖縄市東部海浜開発局の職員、様々な資料を提供頂いた関係者の皆さま、特に、市民委員の皆さまには、衷心より御礼を申し上げ、本検討会議の総括とする。



宮平栄治(座長)
 沖縄市出身及び在住。名城大学国際学群経営情報教育系教授。本会議の座長。会議では、強いリーダーシップを発揮する一方で、ちょっとシャイな一面も垣間見られる。特技はおやしギャグ。(當山評)